

令和元年度

研究集録

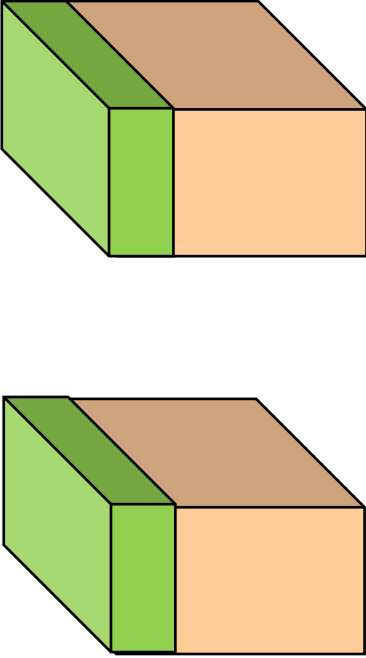

研究テーマ

「幼児が充実感を味わうための戸外遊びの感化用や活動の工夫」



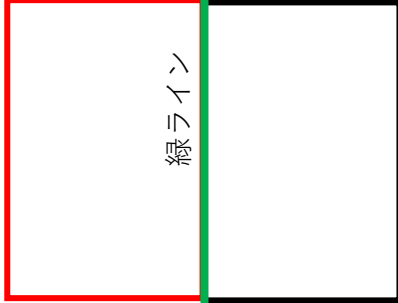


上尾市立平方幼稚園

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p> <p>いろいろな戸外での遊びや新しい環境、友達の遊んでいる姿に興味をもち、積極的に取り組む姿がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスでボール送りゲームをして、チームで競い合う楽しさを感じている。 ・運動会があることを知り、リズムを練習したり、かけっこで協奏したりすることを楽しんでいる。 	<p>ねらい</p>
	<p>環境構成</p>   	<p>遊びの様子</p>
<p>4歳 9月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・雲梯・太鼓橋・ジャングルジムの3つ遊具に幼児が興味をもてるような動物や恐竜の目標をつけ、動物にご飯をあげて遊ぶ環境にした。 ・玉入れにつながるように、上に投げるような動きができるような環境にした。 ・幼児の遊びに合わせて、ラインを引いて難易度を変えて遊んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなコーナーがあったことで、自分なりに投げ方を試しながらよく遊んでいた。入ったことを喜び、教師に見せたり、少し離れてラインの外から投げることに挑戦してさらに楽しんでいた。 ・ジャングルジムは幼児は鬼に見立て、思い切り投げたり、段ボールに強く当てて跳ね返って入ることを面白がったり、椅子を持ってきて座って投げて入れる遊びをしたりし、幼児なりの発想で遊んでいた。 ・太鼓橋のサルが一番難しかったようで、なかなか入らないと話していた。
	<p>評価・反省</p> <p>工夫した環境を整えることで、幼児の意欲や遊びが充実するのが感じられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな難しさを考えた環境にすることで「入る楽しさ」と「なかなか入らない面白さ」を味わいながら、幼児が自分の力に応じて試しながら遊ぶことができた。 ・動物という幼児にとって親しみやすいものや「動物にごはんをあげようよ」というイメージで玉入れ遊びを実習生が考えており、幼児がすぐに楽しんで遊んでいた。また、園庭に出るとすぐに目に入ったようで、「何か楽しそうなものがある!」と、興味をもっていた。いつもの遊具が魅力的な環境に変化することで幼児はともわくわくしていた。 ・その後の運動会の玉入れにもつながり、急に玉入れをするよりも、投げて入る楽しさを味わっていた経験が玉入れの高いかごにも繰り返し挑戦して遊ぶ気持ちにつながっていた姿も見られた。 ・継続的にこの遊びをできる時間を多くは確保できなかったので、玉入れの前にじっくり遊べる指導計画にできるとよりよかったです。 	

	発達段階	幼児の興味・関心	ねらい
4 歳 1 0 月	<p>・運動会を終え、体を動かして遊ぶことの楽しさや運動遊びでの興味が深まっている。</p> <p>・友達と一緒に遊ぶことに興味をもって遊ぶ姿が見られる。</p> <p>・やってみようとする気持ちが芽生え、いろいろな遊びに挑戦する幼児が見られる。</p>	<p>環境構成</p>  <p>・巧技台を2つ置き、そこで腕支持をして遊べるようにした。</p> <p>・園庭に置いておいて、やってみせると、幼児も遊び始めた。</p>	<p>遊びの様子</p>  <p>・すぐに興味をもって力を試して、遊び始めた。</p> <p>・腕に力がなく出来ない幼児もいたが、サーキットの中の一つのコーナーに取り入れたことで、繰り返し遊ぶ中でコツをつかんだり、力の入れ方がわかってきたりした。</p> <p>・友達の様子を見て、刺激を受けたり、数を数えて「○○くん、すごいね」と一緒に喜んでいたりした。</p>
	評価・反省		
	<p>・今まで試したことはなかったが、幼児が興味をもって遊び始めたので、やってみてよかった。</p> <p>・幼児の遊ぶ姿から、一人一人の腕の力を把握することができた。</p> <p>・この後、サーキット遊びの途中にもこのコーナーを取り入れたことで、幼児が遊びの中で繰り返し挑戦する姿が見られ、継続して遊ぶことがよくなった。</p> <p>・いろいろな運動遊びや遊具があるが、幼児が遊びの中でどんな動きを経験し、どんな力が育っているのか、また、あまり経験していない動きはどんなことか知ることが必要だと思った。腕の力や腕支持の力を遊びの中でつけてくれることで、遊びの中での成長が促され、この時期に興味をもって鉄棒の力にもつながったりすると考えた。</p>		

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 汽車の遊具を家にして、下でご飯をつくったり、上を嘔る所に見立てたりして友達とごっこ遊びを楽しむことが多く見られる。 ・ ごっこ遊びの中で友達とやりとりしたり、同じイメージで遊んだりする楽しさを感じている。 ・ 遊びの場を工夫して遊ぶことが増えてきている。 	ねらい
		○友達とのごっこ遊びの中で、縄に触れて遊ぶことを楽しむ
	環境構成	遊びの様子
4 歳 1 0 月	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 汽車の遊具の 2 階から縄を下ろして、バケツを結んで下から上に運んだり、下ろしたりして遊べるようにした。 ・ 縄を遊びの中に取り入れる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・ つくった葉っぱのごちそうを上へ上げたり、下ろしたりしてごっこ遊びに使っていた。 ・ 縄を引いたり、そっと下ろして入ったりして縄に触れて遊ぶことに興味をもっており、その動きや上下の友達とやりとりして遊ぶことを楽しんでいました。 ・ 出してしばらくは興味をもってよく遊んでいたが、しばらくすると、あまり使っていないかった。
評価・反省		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 縄を遊びに取り入れられることをやってみたいと考えたので実践してみた。井戸のようなこういった動きは遊びの中でなかなかないので幼児も面白さを感じていた。縄跳び遊びだけではなく、いろいろな遊び方、遊具の使い方に触れるということはよかったです。 ・ この時期になると、友達の見え方が見えてきたり、やりとりして遊んだりできるようになってきたので、急に人の上に落ちたり、人が使っているときに引いたりということは心配が見られなかった。「引っ張るよー」などと幼児同士で声を掛け合ったり、友達の見え方を意識して遊んでいたことは幼児の姿として成長の一つと捉えられた。 ・ 継続して楽しむことはあまりできなかったもので、もっと幼児の遊ぶ姿を見て、それに応じて工夫できるとよかった。（大きさを変えるとか） 		

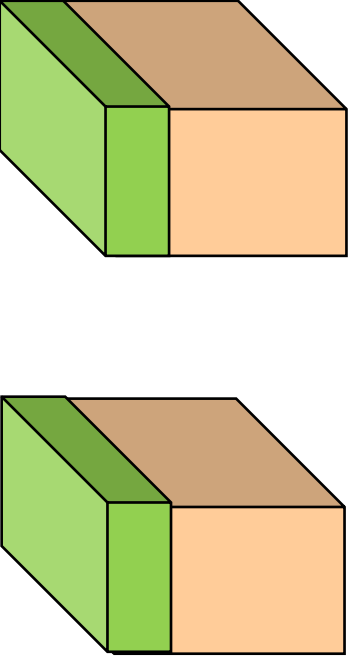

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p> <p>・運動会後、運動することの心地よさや楽しさを感じながら、いろいろな遊びに意欲的に遊ぶようになってきた。 ・鉄棒に興味をもち、前回りやぶたのまるやぎに繰り返し挑戦するようになった。 ・鉄棒をきっかけに太鼓橋や雲梯など、できるようになったこと見せたり、友達の姿からやってみようとしたりする幼児が増えた。</p>	<p>ねらい</p> <p>○いろいろな運動遊びに興味をもち、全身を使って遊ぶことを楽しむ ○挑戦することを楽しんだり、できた喜びを味わったりする</p>
	<p>環境構成</p>	<p>遊びの様子</p>
<p>4 歳 1 1 月</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="619 1574 871 2018">  <p>挑戦ブレスレット： サーキットをゴールした幼児やできるようになったこと増えた幼児にシールを貼る</p> </div> <div data-bbox="858 1529 1233 2018">  <p>目当てをもって挑戦する楽しさを味わえるように、チェーンネットや登り棒に動物の表示をつける</p> <p>太鼓橋から汽車の遊具まで、ジャンプ台、平均台を置きながら、線路でつなげ、いろいろな運動遊具に挑戦して楽しめるようにした</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="619 645 914 1055">  </div> <div data-bbox="635 152 730 629"> <p>毎日、遊びの様子に応じて、コースを変えたり、幼児とつくったりした</p> </div> <div data-bbox="778 163 1106 618">  <p>友達の姿から前回りができるようになりたいと挑戦し、多くの幼児ができるよう</p> </div> </div>
<p>評価・反省</p> <p>・遊具と遊具を線路のラインでつなげたことで、「汽車のところまでつなげてゴールにしよう」という声があり、ゴールということでブレスレットにシールを貼ることにした。すると、ブレスレットに興味をもって、やってみたり、鉄棒に挑戦していた幼児もいろいろ遊具に挑戦したりするきっかけになり、いろいろな体の動きを経験する遊びになったので、ブレスレットではよかったと思う。最終的にブレスレットをどのようにするかが難しく、なんとなく終わりになってしまったのもっと工夫すればよかった。 ・すべてできてシールを貼ることにこだわらずに、4歳児なのでその子にとってできるようになってきたことに対して、シールを貼るようになった。統一性はなかったのがよかったのか、反省としてあるが、個々の意欲を認めたり、「誰にでもできそうな目安、ちょっと挑戦してできる目安」それが4歳児のポイントだと感じた。 ・サーキットにすることで、スタートから友達と一緒に繰り返しやってみたり、いろいろな遊具に取り組み中で身体の動きが慣れてきて、できることが増えてくるのが感じられたりしたので、遊具をつないでサーキット遊びになったのはよかったと思う。</p>		

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期半ばから、円型の転がしドッジボールのルールを転がして繰り返し楽しんでいる。 ・幼児の中には、転がしドッジボールで外野になり、友達を当てるのが楽しくなくなっている様子があり、当てて中に入ることがあまり好きでない姿も見られる。 ・チームで競い合う遊びが好きで多い。 ・ボール遊びで投げることやキャッチすることを以前より楽しむ姿が見られる。 ・年長児が遊んでいる四角のドッジボールに入ってきて遊んだ幼児も数名いる。 	<p>ねらい</p>
<p>環境構成</p> <div style="text-align: center;">  <p>赤ライン</p> <p>緑ライン</p> <p>白ライン</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・帽子の色に合わせて、赤チーム、白チームのラインにし、真ん中のラインは全く違う色にした。 ・色を変えてラインを引くことで、ルールや遊び方が幼児にとって目で見えてわかりやすくなり、共通理解して遊べるようにする。 ・遊びの中で友達同士でルールを伝えやすくなると考えた。 	<p>遊びの様子</p> 	<p>予想よりも早い段階で遊び方やルールを理解し、チームでの勝負を楽しんでいた。「緑の線から出ちゃだめだよ」と幼児同士で伝え合う時に、相手に伝わりやすかった。遊び初めのチームで別れる時にも、ラインを見て集まっていた。ルールがわかりやすくと、幼児もすぐに楽しさを感じていた。</p>  <p>遊び始めると、仲間が増えていく様子があり、繰り返し遊ぶ中で、チーム内でパスし合ったり、友達のボールがとれたことを喜んで、円型ドッジボールとは違った新たな楽しさを感じて遊び、好きな遊びの一つになった。</p>
<p>4歳 2月</p>	<p>評価・反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この時期、遊びが継続して楽しめるようにするために、幼児同士で遊び方を伝え合うことができることも大切なことだと思う。そのため、できる一つとして、ラインをわかりやすくすることで、幼児同士で伝え合う中で、相手に伝わり、遊びが中断することが減り、楽しさをより感じられるように感じた。 ・遊び方がわかりやすいことは興味の継続には重要な要素で、とくに理解に時間がかかる幼児にとっては大きな影響しているように感じた。どうしたら、幼児にとって、わかりやすく新しい遊びを紹介できるか、小さなことでもできる工夫を考えていきたい。 ・強いボールや速いボールを投げたいという気持ちがあり一層芽生え、上手に投げられる姿を見て、その友達のよさを認めたり、刺激を受けまねてやってみたりする姿にもつながった。 	

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p> <p>ねらい</p>	
<p>4 歳 9 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めてのことに消極的な部分があり、なかなか取り組もうとしないことが多い。 ・お父さんやお母さんがつくってくれた竹馬に興味をもって進んで遊び始める姿がある。すぐに乗れるようにならないことに興味が薄れ始めてしまう幼児もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○竹馬に興味をもち、意欲的に取り組む ○出来たという経験を重ね、自分なりの目標をもつ
	<p>環境構成</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・どうやったら竹馬に乗れるようになるかをわかりやすく絵と字で示し、一つ一つクリアしたらシールを貼っていくように表にしたものを配布する。全部クリアしたら賞状を渡す。 ・名人になった幼児が増えてきたら、さらに難しいものを用意し、幼児自身が何に挑戦するか考えられるようにした。 ・コーンや石灰を使ってコースをつくり、ただ歩くだけでなく、楽しんでゴールまで行けるようにする。 	<p>遊びの様子</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・毎日コツ取り組んで「乗れるようになりたい」と頑張る幼児と、乗ることが難しいとわかるとすぐに諦めてしまう幼児の差がとても大きい。 ・担任や担任外が補助をしながら コツを教えていくようにしたが、なかなか乗れないことで意欲がなくなってしまいう幼児もいた。 ・配布した表を見ながら、できるように繰り返し挑戦する幼児がとても増えた。 ・友達と距離を競ったり、励まし合ったりしながら一緒に挑戦する姿が見られた。
	<p>評価・反省</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乗れるようになるための過程を可視化したことで、次に何をすればいいかがわかりやすく、進んで取り組むことができたように思う。また、一つ一つの項目も細かく区切ったことで、「できた！」という達成感が感じやすくなり、意欲に繋がっていた。 ・竹馬に乗り始めたころは、みんなが補助を必要とするため、担任・担任外と」複数で対応したが、それでも待つ時間が長くなってしまったので、グループごとなどで時間を分けてやることも必要だったと思う。 ・竹馬を通して、くり返し、継続的に取り組むことの大切さや努力をすればできるようになることを多くの幼児が感じられたように思う。

5歳

腕支持遊び

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p>	<p>ねらい</p>
<p>5歳 10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭遊びの中で、ブランコやすべり台は好きでよく遊ぶ姿が見られるが、鉄棒、雲梯、上り棒などへの興味・関心がほとんどない ・クラスで上り棒や鉄棒にみんな挑戦した時に、自分の体を支えられない幼児が多く、前回りすらできない幼児が半数以上いた。 	<p>○繰り返し挑戦する中で、コツをつかんだり、友達と競い合ったりして遊ぶことを楽しむ</p>
	<p>環境構成</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・巧技台を2つ置き、そこで腕支持をして遊べるようにした。 ・園庭に置いておいて、やってみせると、幼児も遊び始めた。 	<p>遊びの様子</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・力を試して、遊び始めた。 ・初めはなかなか腕で保つことが難しい幼児もいたが、何回かやるうちに、コツをつかんで足を動かさないうようにしたり、力の入れ加減を考えたりしていた。 ・数を数えて長い時間できることに達成感を味わったり、友達と競い合ったりして楽しんでいる。また、なかなかかやってみようとしなかった幼児も友達のとりに
	<p>評価・反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雲梯や鉄棒、上り棒など腕を使った遊具への取り組みに消極的だったり、実際にやってもできない幼児が多かったりしていた理由がこの遊びを通して分かった。 ・幼児の遊ぶ姿から、腕力のない子、支え方のうまくない子など一人一人の腕の力を把握することができた。 ・なかなかやってみようとしないうつ幼児もいたので、時間を設け、みんな順番に挑戦したり、長くできる幼児に見本を見せてもらったりした。友達のをみることで刺激を受け、「〇〇秒まで頑張る！」と遊び始めた幼児もいた。友達のとりに刺激を受けたり、興味も増えていると感じた。 	

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会を終え、玉入れを経験したこととつながり、ボール遊びにも興味をもっている。 ・「ねらって球を入れる」面白さを感じた幼児から、「高いバスケットやりたい」という声が聞かれた。 ・自分の力を試したり、挑戦する楽しさを感じたりする幼児の姿が多く見られる。 	ねらい
		<ul style="list-style-type: none"> ○自分なりに試したり、挑戦したりしながらボール遊びを楽しむ ○狙ったところにボールを投げて遊ぶ
	環境構成	遊びの様子
5歳 10月	<p>(環境の配慮点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつものバスケットゴールをより高く設定した。 ・時期や発達に応じて、いつもの遊具を少し変化させて出すことで意欲や興味をもって、繰り返し挑戦できるようにした。 ・壁の前に設定したことで遊びやすかった。 ・ラインを何段階か引くことで年長児もさらに難易度を変えて遊べるようにした。 ・支柱と結ぶことで倒れずに高いバスケットを設定することができた。 	 <div data-bbox="1078 138 1251 1064" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・投げ方のコツをつかみながら、何度も挑戦して遊ぶことを楽しんでいた。 ・年長児も年少児も、ラインに立って、それぞれ離れたところからやってみたり、「次はこっちで挑戦！」と自分なりに試したりしていた。 </div>
	評価・反省	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「もっと高いのがやりたい」という幼児がいたので、いつも使っているバスケットであるが、高さを変えて遊べるようにし、挑戦して楽しむことができた。 ・幼児の興味や実態に応じて、どうやれば実現できるかを考えて、既存の遊具を工夫して使っていくようにしたいと思う。 	

	<p>発達段階 幼児の興味・関心</p>	<p>ねらい</p>
<p>5歳 11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 腕支持遊びや鉄棒などで、腕力がない幼児が多い 鬼ごっこが好きで、水鬼、ドロケイ、色鬼など様々な鬼ごっこを友達と誘い合っている 運動会を通して、友達と競い合うことに楽しさを感じている 	<p>○クモ鬼を通して遊びながら体力づくりをする</p>
	<p>環境構成</p>	<p>遊びの様子</p>
	<div data-bbox="587 1400 949 1966" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> 新しい鬼ごっこの提案 裸足で鬼は四つん這いになり、追いかける。逃げる幼児はお腹を上にして四つん這いになって逃げる 捕まったら鬼になり、四つん這いで追いかける（鬼が増える） 	<p>鬼ごっこはとて好きなので、新しい鬼ごっこの提案にもとても興味を示していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 逃げる側の四つん這いが腕力をとて使用のできつく、すぐに捕まってしまう幼児が多い。 腕力のある幼児は逃げるのもとても速く、逃げる時間も長いので、幼児によって大きな差ができる。 ホールでもできる鬼ごっことして幼児はとて楽しそうにくり返し遊んでいた。
	<p>評価・反省</p> <ul style="list-style-type: none"> 腕支持遊びから、全体的に腕力がないことが感じられたので、幼児の好きな鬼ごっこと合わせてできる遊びを提案した。 逃げていた幼児は慣れない姿勢に苦戦していたが、繰り返し遊ぶことで慣れていき、自分なりに動いたり・休んだり工夫している姿が見られた。 継続して遊ぶことで、遊びながら腕力や持久力が身に付くことができるので、3学期も継続して遊びに取り入れていきたい。 	

園内研究を通して

(年長)

・運動遊びへの興味・関心がうすいと感じていたが、様々な環境を用意しておくことで、自ら興味を持って参加したり挑戦したりする幼児が増えたように思う。

(年少)

・小さな環境の変化でも、幼児が気付き、興味をもって遊び始める姿がどの実践でも見られた。幼児が新しい遊びに興味をもつことは、4歳児は遊びの幅や友達関係の広がり大きく影響していくと感じた。



幼児の実態や興味に応じた新たな環境を構成することで、いつもとは異なる環境に触れ、自ら興味をもって遊び始める幼児の姿が多く見られた。そして、その遊びの様子を捉えて、環境をさらに工夫することで継続的な意欲につながったり、挑戦する気持ちが育まれたりし、幼児が充実感を味わうことができた。

どんな環境の工夫ができるか考えていく中で、新たな環境を探っていくことは難しく、日々の保育がどんどん過ぎてしまったことは反省点である。戸外遊びは気候や遊びやすい季節の影響があるため、実践計画を早めに立てておこなければ、タイミングを逸して実践が積み重ねられないことも実感した。簡単で小さな環境の工夫でも幼児の姿に変容があり、遊びの充実につながると感じ、大きな環境の工夫と構えず、日々の中で実践していくようにしていくことが大切である。また、これまで実践した遊びも、さらにできる環境の工夫はないか探りながら、実践、評価、反省を続けていきたいと思う。

